

詞林典故 下



服部文庫
イ17
461
2



117
461
2

詞八衢下卷



下二段活	中二段活	四段の活
撫 <small>カ</small> 捨 <small>ス</small>	閉 <small>ト</small> 落 <small>オ</small>	待 <small>マ</small> 打 <small>ウ</small>
(7)	(ち)	(た)
まむぬ <small>カ</small>	まむぬ <small>ト</small>	まむぬ <small>マ</small>
1る <small>カ</small> 名 <small>カ</small> 多 <small>カ</small> て	1る <small>ト</small> 名 <small>ト</small> 多 <small>ト</small> て	1る <small>マ</small> 名 <small>マ</small> 多 <small>マ</small> て
(つ)	(つ)	(つ)
まむぬ <small>カ</small>	まむぬ <small>ト</small>	まむぬ <small>マ</small>
(3)テ	(3)テ	
よ <small>カ</small> と <small>カ</small> か <small>カ</small> か <small>カ</small>	よ <small>ト</small> と <small>ト</small> か <small>ト</small> か <small>ト</small>	よ <small>マ</small> と <small>マ</small> か <small>マ</small> か <small>マ</small>
(7)	(7)	(7)
よ <small>カ</small> と <small>カ</small>	よ <small>ト</small> と <small>ト</small>	よ <small>マ</small> と <small>マ</small>

多行之圖 並受りてんまの象

○このりよハ一段の活相也

やちまて下

四段の活詞

あう	あやま	う	う
か	か	く	け
こ	ま	そ	た
た	た	ま	た
ひ	ひ	ま	ま
ひ	ま	わ	ま

○いつ古今集友わづらうをのらうとわのあひ云依ふ
 袖ひ所まをよ反撰集悉ふををわらうらう金葉集まに代
 ふひつ松のまをわあうまをけけ乃中二段も依て

お卯言あをこれ例あ不これりきあり

○みつ古今集に志不こぞ入ゆる殿の後撰集に收こ
 め帰こまけをや拾遺集系小志ほこるやにけりよ
 お後拾遺集をにわらうはよう所が物指藤原君のまをよ
 ひま下やかと云い又吹上巻よ秋こ受こる云まと同巻の
 新よ志やれらうれ源氏物語真本相よむひよ
 て云丹後中為忠家百首に盛忠いうまればこぬこよ
 月歌の云こむど程こまけくわくおやけあきたきこの相
 中二段ふらちらうこ程こまけさる程こまけ
 よ志う活きたるこ見あこけ皆右のここの

○やちまう

小のむきばかりまゝに寛き女侍人内屏風よきあへせ家流いゝゑ
 まつたりの乃きあへ水まらしくおんまあき世のうげをえはれ
 とあるまらふハミマキおんまあきとありいとゆる自然のわの
 ちありうしくとほまきとぞ

中二段の活詞

このつるを倍云ふちるまらふ例じ

いさつる ねつる くらつる
 まこづる ちやづる せづる ちづる
 ひつる ちづる よづる まつる

○いまるる 古事記上卷小啼伊佐知伎云々又下ナキイサチル哭伊佐知流

やありこハいさつるまらふまき例あればせまらふことつして
 ハ俗まの例あり続日本紀宣命アラ荒備流ヒとられや俗まの
 例なりこめおやくつるる例なり

○まこづる 日本紀孝徳卷にシコチ諸倉山田大臣於皇太子曰云々
シコチ続日本紀宣命小譏治まらふりつるまらふ字鏡シ諸譏也志
シ已豆とありまらふくちづるとありて外のまらふまらふまらふ
シまらふのまらふまらふ乃まらふまらふまらふまらふまらふまらふ
 濁音シまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ
 ○まらふまらふ 堀川百首集シまらふまらふまらふまらふまらふ
 ○まらふまらふ 拾遺集シまらふまらふまらふまらふまらふ
シまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ

上杉やうてくばうしゆでひつるたのやの急特鈴日記に袖ひつる付
 とすふこそなごきし源氏徳角ふかゆ袖ひつるふど堀川二
 郎ふ袖ひつるやこの河原あをさうらなくおなうまなり
 ○もみづる萬葉十小山の將黃變古今集をほひしももも
 ねを思えけき新古今冬よこあしれゆふみぢりてあそびあり
 ○をひる出雲国造神賀詞彌乎知尔御表知坐云々万葉
 集十七はたなちも乎知母の御とき同井よゆめ花らけ那
 也乎知よまけまはのあよ影云をちかぬうなぞつるを
 こねあけけくかくのこあまてつつるつ垂とつるこはあて
 ぎもどもこのもたなきなるべし

下二段の活詞

ひつるを俗言よはてるるといふ例なり

あつれ 。あわつれ いづれ 。うつれ
 かなづれ くらゝづれ まづれ せむづれ
 たづれ なづれ ひづれ こづれ
 まうづれ ゆづれ

- あまつる字鏡小惶急阿和豆やありけりといつるハ多ク
- うつる古事記上巻にぬぎ字豆又棄をうけるヤとある事
- ゆづる字鏡小煤以菜入湯云々奈由豆とあり又菜花物種
- 古事記上巻にこまゝでまゝ古今集春よあしをけ道ゆ

○やちまゝと下

三つにやほほ。大依日記ふ手をひて。さすけを去
 らぬまゝの神の川神をひて。やま。丈木集。野川の水
 枝ひて。その外。そ。な。の。つ。あ。で。は。ま。で。せ。つ。て。う。つ。て
 ひくまひ。み。は。う。つ。せ。を。約。え。く。つ。た。の。こ。う。あ
 け。の。し。な。と。う。の。あ。げ。た。た。き。こ。あ。は
 け。の。あ。り。の。あ。ま。の。う。ち。み。て。八。家。隆。の
 舞。の。う。ち。の。あ。ま。の。あ。げ。て。こ。つ。る。を。あ。ま。の
 この活詞もあつてもねぞれはまのあづきん

奈
 多行之圖 並受てたをその系

下二段活	一段の活	変格活
兼カニル 束カニル	似ニル 煮ニル	死ニル 往イニル
ね	に	な
ねむいぬ	ねむいぬ	ねむいぬ
いぬいぬ	いぬいぬ	いぬいぬ
ぬ	に	ぬ
いぬいぬ	いぬいぬ	いぬいぬ
ぬ	に	ぬ
いぬいぬ	いぬいぬ	いぬいぬ
ぬ	に	ぬ
いぬいぬ	いぬいぬ	いぬいぬ

○けり小四段の活中二段の活なり

○やちまて下

○五

四段の活詞

あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ
あが	あが	あが	あが	あが	あが	あが	あが	あが	あが
あき	あき	あき	あき	あき	あき	あき	あき	あき	あき
あた	あた	あた	あた	あた	あた	あた	あた	あた	あた
あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ
あへ	あへ	あへ	あへ	あへ	あへ	あへ	あへ	あへ	あへ
あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ
あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ
あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ
あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ

う	う	う	う	う	う	う	う	う	う
うが	うが	うが	うが	うが	うが	うが	うが	うが	うが
うま	うま	うま	うま	うま	うま	うま	うま	うま	うま
うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた
うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた
うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた
うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた
うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた
うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた
うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた	うた

○やちきん

○

をやあり

○いさよふ大和もほたりたひさめふたり 唐窪の切たりふ
いづつひくちをり

○うもふ古事記上巻に宇氣布と記ふ伊勢もわたり
に記してくた人とうけへをあらあ

○うけふふ 萬葉十八の抄あり宇豆奈比 続日本紀宣
命に相宇豆奈比奉 ありちほあま

○うけふ 拾遺集にふいよき紫中 丹後守為忠家百
首小忠盛らけのあ階を乃うらひめらぬ中あり

○かぶ 万葉九に加賀布耀歌とあり

○かこふ 全葉集雑小かこふ垣紫の好忠集かこふ
のまぐき 垣門百を雑かこふいわふ紫代房 丹後守為忠家
百首に伸正かこふくさけのあまのさぞをあらあり

○かこふ 古事記中巻に掠取其母王 続日本紀宣命小高
脚坐次乎加藤 毘 奪りく皇位乎掠 天ふとあり ちと日本紀
繼體巻に掠とつとひとをうり

○かぶ 万葉十八ふひ中 加多波牟 後撰集春に山
風乃夜の音かぶふぬりちハエにあらあり

○くさふ 万葉四ふ久流比小久流比 けふのりやととりあり
○ころぶ 日本紀神代巻に發稜威之噴議又神武巻に誦噴

○やちまうと下

之まゝ万葉十一よゝに所。嘖物むまゝねと又十四よ移るへこ
ゆゑよゝに詐。日波。要。むもりりそそめ。河。中。二。段。の。活。う。も
ねもろろねど。活。う。ず。ま。ね。ハ。ま。て。中。二。段。乃。活。う。葉。乃。を。身。一
の音。ま。を。良。行。乃。下。二。段。の。活。ふ。こ。ろ。を。色。な。ま。し。つ。例。お。り。か。く
つ。ハ。ハ。お。四。段。の。活。う。む。ろ。ね。だ。り。こ。ろ。を。え。ハ。ハ。倍。を。色。な。り
○まゝよゝ。大。被。詞。佐。須。良。比。う。あ。ひ。て。會。保。氏。物。う。り
徳。角。に。り。る。活。う。ま。き。う。り。よ。ま。も。ふ。た。ご。ハ。金。葉。集。意。よ。ゆ。き
さ。も。も。び。く。な。せ。り。り。ハ。河。此。乃。乃。下。二。段。の。も。も。ま。り。そ
つ。ひ。て。ね。な。よ。ね。ま。也。こ。こ。え。たり

○まゝよゝ。保。氏。明。不。よ。ね。と。あ。ひ。さ。づ。け。ハ。散。木。寄。歌。集。に

山陰よやせさ。ぼく。る。い。ぬ。さ。く。く。お。ひ。を。お。う。せ。く。ひ。く。人。ハ。お。り

○まゝよゝ。古。事。記。下。卷。ハ。匍。匍。進。赴。云。續。日。本。紀。宣。命。に
進。退。ま。ろ。く。を。い。お。ど。あり

○まゝよゝ。万。葉。三。よ。ま。た。乃。葉。の。之。奈。布。せ。の。山。ま。ゝ。十三。マ

ま。山。の。四。名。比。さ。う。と。て。又。二十。よ。な。ら。之。奈。布。ま。み。が。む。ぐ。を。又

好。忠。集。に。尾。羽。を。ま。あ。へ。る。な。ど。こ。ろ。な。り。又。也。乃。の。下。二。段。の。活

ハ。志。子。ゆ。ま。あ。ゆ。る。ま。な。ゆ。を。ま。あ。え。と。い。つ。こ。も。あ。り。こ。も。こ

あ。の。詞。と。今。ハ。お。あ。り。ま。言。と。ま。ゆ。を。ま。か。く。り。も。活。を。あ。や。り

お。あ。り。ま。あ。る。例。も。ま。ね。が。異。あ。れ。ま。あ。る。あ。や。こ。は。は。は。つ。ぐ。ま

お。ど。ろ。か。か。く。お。ど。あり

○やちまきこ

さへかく四段エ〜〜〜他のもありこれよまび〜ふをひこ
の行下二段おちど〜ふな〜〜な〜〜ま〜〜人〜
きてち化乃〜ふよまを〜〜〜〜
か不かくおちど〜お〜〜〜
うの〜〜おほ〜れどこハ〜かま〜〜
てよ〜まゆ〜く〜

○ホよふ 落くばふ。ひとるとり。

○秘ざらふ 日本紀雄略巻に^{ネギラ}勞軍ととり

○のろふ 靈異記に咒とのろふ。伊勢物語おあふれさうをさ
うらてむむのろひをねる。枕草伝よりうらばる人のろひ

ゆぐく〜〜ちや〜んて

○ぬれをみ 源氏初音にゆをひぬぶ〜〜やあ〜
ま〜支本集に西行法師志だがかみおぬをひておど
あり〜れ〜〜ぬあり 萬葉二よみづれ〜〜とあり

ハムとと延てつぬれあり

○うらふ 舊事記にゆえくを布^い瑠部とあり

○こまらふ 新古今事上神まほせけ〜〜とあり
なぞ〜ありあり

○まよふ 古事記上巻よ委蛇^{モコヨヒキ}又日本紀にカド 源氏
葵よ〜〜とあり 藤原橘上の巻にもげ〜たふを

もろゝひはつゝかばあや

○もろゝ 日本紀神武系歌おむらふ勢れまゝつゝも 茂登倍屢
云古事記やちもやへととりもまどくも四の書より里
の辞とうらねをこゝれをたうきあ格なり

○もろゝ 字鏡に餉寄食也毛良比波死せりえたり

○やろゝ 續日本後紀長哥にうゝまゝす 博士不雇須とあり

○ゆろゝ 源氏紅葉如ふこゝ後ゆるびるきやろゝ

○よろゝ 万葉一にそと与臣布とあり

○よろゝ 源氏夕敷ようらよ後ほひせり

○古くはつぎきをちぎわひはらふをにぐへまをー紙

まをまひまろゝあををまあーもろゝまろゝをまあひるゝ

とゑまひわとまををめをまろゝひらたをわたろゝ

のまをのゝろゝ延てつろゝあやろゝあやろゝ

中にこの四ほよもろゝたろゝお平あもをよきてつぎ

まをたあ某詞をのべたるほろゝもろゝかぬき海たほを多

しまろゝ二重ふた登くつろゝもろゝ古事記中巻にろゝ

まをほろゝろゝみ乃ろゝあかろゝまほをろゝあはと

つひまろゝそれをのべてやくつひ日本紀雄略巻に中津枝

おらろゝろゝまろゝ万葉二下つ歌よちろゝれろゝあどあろゝ

あををろゝろゝのへろゝとれをぬろゝろゝつろゝなりこめ

下は河麻行あくハ四段の活あねどもこの形ハうけやまは
こ乃活くまこるりハ歎ふ不こりやあ

○いなぬる源氏末楠花ふつあびぬ口ころふま若菜
かてつあぶると又総角よえきこえつあびてなぞあはあ

○うまづ 祝詞ハ疎夫留ゆと疎備カあうこね麻行
はくき四段のこしきなり

○うまづ 三代實録ハ憂カとあうけくこの句ハはひ
乃下二段の活ふのこ用ひたるを右乃こくつるハ四段の活
れ格る下はきここのかにもこきたるこをいえざればつ
ももたしハ定まられと四段乃活わらバこきハ

うまづハうれとあうまをなるをけハつたがくをね
えどこの活あくハうまひむうまひぬうまひとこ格な
下ハハつたききさあ後ぞこよかきけり但ハあは
あ二がに活く河の例四段乃活と中二段乃活又四段の活や
下二段の活あはハあをわね中二段と下二段ハこ
きてねあはまあハ例やハ此ハ四段の活ハあな
こ下下につる事つらひきいれ

○おろづる万葉九にこらびオ於良妣ラ日本紀崇神表に叫オ
哭又雄略表ハ呼コ嘯ヒをいけあくおよこつたハ四段の
活きやハおろづる乃こつたのあは

○やちまこ下

○つむ 万葉二に敵見有とありは此とてきたる

鬼えぞれどもこれ活あぐべ中二段のくまきまハワド

○へぞ 日本紀神武卷屯聚居之屯聚居此云 怡皮淤萎 又欽明卷

に充満あぐべ

○うだあ 續日本紀宣命と天地乃宇倍奈由流之 弥

やあるけとありこ乃たれあれぞ

○うれと 伊勢抄が案にワグセーがやうれ

みせやうまこれとふむ

○かむ 和名抄と撰俗云波奈加無 保氏あげま

た

○かつが 伊勢抄とありふかつみとま 大和もはが

はかしまはふとく

○かた 靈異記と好と可陀弥 日本紀と續日本紀

宣命に好とつ

○かたけ 續日本紀宣命に厚弥カケミチ 中あり

○まぎ 好忠集とわちまはむ松乃密紙中あり

○くろむ 狭衣にろむつとやあり

○こやふ 古今集とあやふとやあり

まの保氏もはがうに

○やちま

中二段の活詞

おのむるを俗言ちみるゝつぬり

○おのむる ○うちらむる ○うせむる ○しむる

くせむる たむる

○あむる 古今集よけく人ゆあむるしき枕草書よ
社かきくつむるゆハまくなむ程あり

○うせむる 狭衣ようせむる人なつてせよりけむる

うらむるといふをむら

○うせむる 源氏中川よきこえうせむるこありさくこの

初めの四段よ波りの中二段せをこせきてまむりや

○たむる 万葉云よき多武流うれむくむく二十に

をうれまに伊勢牟流。こになむあうたのやうたむるたむる
たむるたむるたむるたむるたむるたむるたむるたむる
れむるれむるれむるれむるれむるれむるれむるれむる
かむるかむるかむるかむるかむるかむるかむるかむる

下二段の活詞

此むるを俗言ちむるこつぬり

あむる あむる あきしむる あたむる

あむる あむる あやむる あしたむる

いけむる つらむる うせむる うげむる

えしむる ねむる かげむる かせむる

○やちまき下

○あゆむ 万葉八上 聖の如く 三月をちかむ 安要奴が花咲
 まり云々 十に秋は方き 水草花の 安要奴が
 ま又十八上 安由流實ハむぬきけくま ぬぐひをま
 ○あゆむ 打ちつばよ 血のゆをぬき 枕草紙よあせりゆ
 於て花ぞ一けり ぬぐひあはれり

○あゆむ 源氏中 けりて 寄生小つたえく
 けり 榮花物づり ぼあり ぬれあまをそく のまけりて外
 活きさるる ぬれあまをそく ぬれ 波 けり下 二段 乃活けり ぬれ
 俗云 ありぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
 ○いづゆる 和名抄 一 嘶 和名 以波 由源氏 旅角 馬 どの

いづゆる 波拾送集に 駒をいづゆる ちやれちや 一のこき
 をちかむ せふいづゆる ぬれあまをそく 波 けり 乃 四段 のまけりて
 ぬれ 新古今 乃 ぬれあまをそく ぬれあまをそく ぬれあまをそく

○おびゆる 万葉集 二 協流 ます 源氏物語 乃 常本 不
 や ぬれあまをそく 若菜に ぬれあまをそく ぬれあまをそく ぬれあまをそく

○くゆる 万葉十四 二 みる けり 伊波 又 戯 乃 君久 由
 ○まあゆる 万葉 二 友 ちかむ ぬれあまをそく 之 奈 要 十 九
 之 奈 要 ぬれあまをそく ぬれあまをそく ぬれあまをそく ぬれあまをそく
 たき 志まよ 乃 ぬれあまをそく ぬれあまをそく ぬれあまをそく

○けいゆる 字鏡 一 瘡 豆 比 由 中 へ

○ちちり 下

○るゆゑ 万葉ニよらるれば波由流とよみたり

○ひゆる 拾遺集にみちしるるよきかきあり

○ほゆる 靈異記に喚吠と保由と訓注あり

○りゆる 出雲国造神賀詞に御若敷坐忠孝集に

るるの志げくをわらむゆゑ忠見集に人のちるゆゑ菊

のうへ赤湯あ家集に霞よるゆゑなぞいりたり

○るゆる 古事記中巻に御軍皆遠延而日本紀に瘁瘡

あどの字を去るゆゑりけりゆゑ活きたること見れば阿

ゆもわらむるゆゑ日本紀にやまもやよりてりければ

羅行之圖 並受るるにそのあ

下二段活	中二段活	四段活
晴 <small>ハル</small> 枯 <small>カ</small>	蓄 <small>ホ</small> 下 <small>カ</small>	釣 <small>ツル</small> 去 <small>サル</small>
れ	り	る
きむねとでぞ	きむねとでぞ	きむねとでぞ
りききて らむかきつ	りききて らむかきつ	りききて らむかきつ
る	る	る
らむかきつ	らむかきつ	らむかきつ
る	る	る
らむかきつ	らむかきつ	らむかきつ
る	る	る
らむかきつ	らむかきつ	らむかきつ

○けりゆる 一戻の活河なり

○るるのやちまう下

ありこののそききゆあり

○アチクルつゝあつゝ 日本紀舒明卷に入畝傍山因以探山欽明卷
小考カカヲテ竅古今又字鏡小竅阿奈久苗榮花物語うらみの
別は字カや能にやあつゝのそききよるひはけつゝの國と
かたはたつゝといやうそききありせうはねあつゝのそきき
けつゝのそききあり

○あづる 字鏡に焚阿夫苗後撰集あつゝのそきき

○あやうれ 拾遺集あやうれをるそききあり

○いはる 万葉十巻の伊射流火波あり

○いほがれ 万葉九の伊都我里あつゝのそききあり

○うづたつゝ 大被詞に集侍續日本紀に末為字古那波れ苗

○うぢゆゝ 古事記下巻に庭まの字受須麻理韋三あり

○うゆゝ 日本紀允恭卷に蕃息仁賢卷に殖皇極卷に

不蕃息なごあり

○おぎのゝ 字鏡に賒於文乃利去依日記におぎのそきき

としてあつゝあり

○おくゆゝ 源氏若世あつゝのそききあり

○おそる 續日本紀宣命に懼理あつゝのそききあり

昔よりハ下二段の活きよれつゝをさくハかく四段乃活に
そききあり此例カクリテ隠觸志なごあり

○ 杉をぬき うちを後落ふ文に杉をぬき 杉をぬき 杉をぬき
 ○ 杉をぬき 万葉十六のうらみ本をぬき 於保登禮流
 あり又保氏東をぬき 杉をぬき 杉をぬき 杉をぬき 杉をぬき
 杉をぬき 杉をぬき 杉をぬき 杉をぬき 杉をぬき 杉をぬき
 二匠の削りくくき異なり 平習巻ありかくあり

○ 杉をぬき 日本紀神武卷の倭姫をぬき 杉をぬき 杉をぬき
 ○ かくる 古事記上巻哥に喜山の日か迦久良波下巻の
 かくる賀久理 万葉十めにやどり我久里なる杉あり杉あり
 上より下へゆく 中昔より下へ下二匠のさくさく杉あり杉あり
 ○ かくる 古事記下巻にゆふ日賀氣流美夜云杉あり杉あり

ありありあり新古今集夏子野もせ乃くさけのさるひく
 杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり

○ かなご 源氏第巻にひきかかふる杉あり杉あり
 ○ くらり 宇鏡に饑伊比久佐礼利をぬき杉あり杉あり
 ○ くらり 古今集序よきみな杉あり杉あり杉あり杉あり
 まて精舎日記よき杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり
 ○ くらり 牛取の杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり
 ○ くらり 棠花抄の杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり
 ○ くらり 古事記中巻歌よあり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり
 とより又古今集よ杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり杉あり

うらほりくぬるとりう年あけうーん

○ けくどろ 朽ちくほ物がうり又使衣四よきありさあり

○ あぶまた 榮花物語玉飾しつが命やあゆらやうん

○ 志なる うけや藤原君よ大きから木よ志ううつきりさ

○ 志ゆ 古事記下巻哥にや士麻理斯麻理もやほりさ

○ 志なる 伊勢物語よ女をすつてせくらにきて志なり

○ まる 源氏をく女よ淡きやうきやつひきさ

○ 志なる うけお借吹上下よえうびきうなる上よき

○ 源氏桐壺ようきくわくわくなげあり

○ 志なる うけお借吹あて宮よ水ききうて源氏志本

よ鼻き。何へりなやあり又万葉五よゆ酒うち須々呂
比豆ともなり須々呂比ききなり

○ 志なる 拾遺集志よまなまど 堀川百首夏よまなま

る中へうとぬる云々 同二郎百首にまなまどぬぞありけ

堀川百首初句と一季にまなまどありさくハみの下二段の

そくききあなり

○ 志なる 宇治拾遺物語よ菊のびあがをゆりてま

ぢりもぢりもえいごをゆりて一座をさくをさ

○ せまる うけが友原君よせまきあれたる大雲みとあり

○ 志なる 万葉集十七あ月曾々理うら山神樂奇よ

ゆきりあきまよ曾々利あぢよなごりてり

○そくろる 朽ちくぼ拙清よりりてりひそくろて轉珍日記

七よんをいぬきむなごりひてりてりおたろやごよ栄花拙清

楚王夢にそくろりせなてま修りまごあごり

○たごろる 万葉一よ置有 杜若余に髪乃うちたあり

て狭衣四よたあろりわくあごり

○はくしれ 字鏡に醋左加奈豆志苗ときえり

源氏集本よはくしれりふ又万葉集五よあごりほを取都々

之呂比とも延てり

○はくしれ 字鏡に膳孕始兆也豆波利乃登支和名抄り

擇食ハ豆波利朽ちくぼ拙清よりりてりひそくろて轉珍日記

栄れよろくろりてりひそくろりてりひそくろりてり

○なづきろれ 神乎奇に見てりてりてりてり

神乃てりてりてりてりてりてりてりてり

よハ結句とるつさ月かとやありてりてり

○なぬる 万葉十五に人奈夫理のてりてりてり

○小ちる 字鏡に躑不弥余志苗や見ろり

○小づる 日本紀天智卷に鋭鈍力竭とあり

○新づる 字鏡に讒祿夫苗とあり

○のをろる 日本紀齊明卷に病自蠲消とあり

礼中取捨は、[○]はをくく[○]た乃[○]まり[○]むたぬ[○]の[○]を[○]を[○]

○まゝに 枕草紙に袖かへま[○]る[○]を[○]あり

○まなづの 古事記上巻になき麻那賀理とあり

○むつる 万葉二十に敝年加流の[○]を[○]あり

○もぢる 万葉拾遺物語にむぢあ[○]る[○]を[○]あり

○かぎらむぢる 万葉云くやあり

○やまゆふ 続日本紀宣年中息安麻流倍伎又休息安[○]麻利[○]

○ゆも 住吉物語に古きゆも[○]を[○]あり

○ゆも 神樂寺に由須利ゆも[○]を[○]あり

○よけ 源氏物語によけ[○]を[○]あり

○ワも 日本紀神代哥にわきの鳥やも[○]を[○]あり

○和素 暹珥[○]にわも[○]を[○]あり

○万葉二十に 和須良[○]

○万葉二十に 和須良[○]

○万葉二十に 和須良[○]

○万葉二十に 和須良[○]

○万葉二十に 和須良[○]

○万葉二十に 和須良[○]

○万葉二十に 和須良[○]

○万葉二十に 和須良[○]

○やちま[○]と[○]下

○四十六

○あぢく 源氏物語常本にあぢく。可あく空掉巻に
あぢく。きこひなごけりり

○あぢく 字鏡に鱧魚肉爛也阿佐礼太利とあり

○あぢく 物語り文に社あぢきなり。りぬ乃ちあく外

あぢきたるやあぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。

○あぢく 源氏末巻にあぢく。あぢく。あぢく。又手習に髪

乃ちあぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。

○あぢく 万葉九に舟あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。

あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。

○あぢく 和名抄に漆瘡和名宇流之加不礼とあり

○あぢく 神樂奇に山人のあぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。

○あぢく 散木寄歌集にあぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。

あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。

あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。

あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。

あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。

あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。

あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。あぢく。

平浦かりかきも活、こゝ成りや外より来りて

○まみあうれ、詞苑集意より、のよのよをききあうれ

とあり速に炭焼を抄りたり

○まゆ、ま本集鷹乃奇よ、それぬき反とよあり

○まぼろ、袂衣一より、ひきほりけをひきありま

今撰和奇集に為真入道、いよの梅のちのち

ぢうれ春雨と、ほきてをわくともやあり

○たの、古事記上巻に宇士多加礼、ゆゑに俗云

てと四段のそと、き河より

○たの、古事記上巻に血爛をちあ、えたり

○まゆ、係公夕秋より、うれぬがよあり

○まみ、日本紀神代巻に血染と、まにわたり

まに千載集よ、まにわたり

○まゆ、丹後守為忠家百、まに盛つて

まにまゆ、まにわたり

○まゆ、神樂奇に油と、まにわたり

○まゆ、お唐書に、まにわたり

まにまゆ、まにわたり

つとめぬうけりたるを頼もすれに能く守れりたるは
しるる也

安^レ行^ルも^レく^レせ^テ右^ノ奉^ルる^中密^ニぞ^シ程^ニ由^ルく^レた^レき^レく
か^レぎ^レ架^レち^レく^レ程^ニ印^シを^シた^レ程^ニひ^レ出^ルに^レ去^リて^レい^レく^レも^レ一^レ行^ルる^もま^レば
も^レれた^レ程^ニ多^ク程^ニ一^レと^レら^レ行^ルる^もな^レひ^レて^レ一^レ程^ニき^レ那^レま

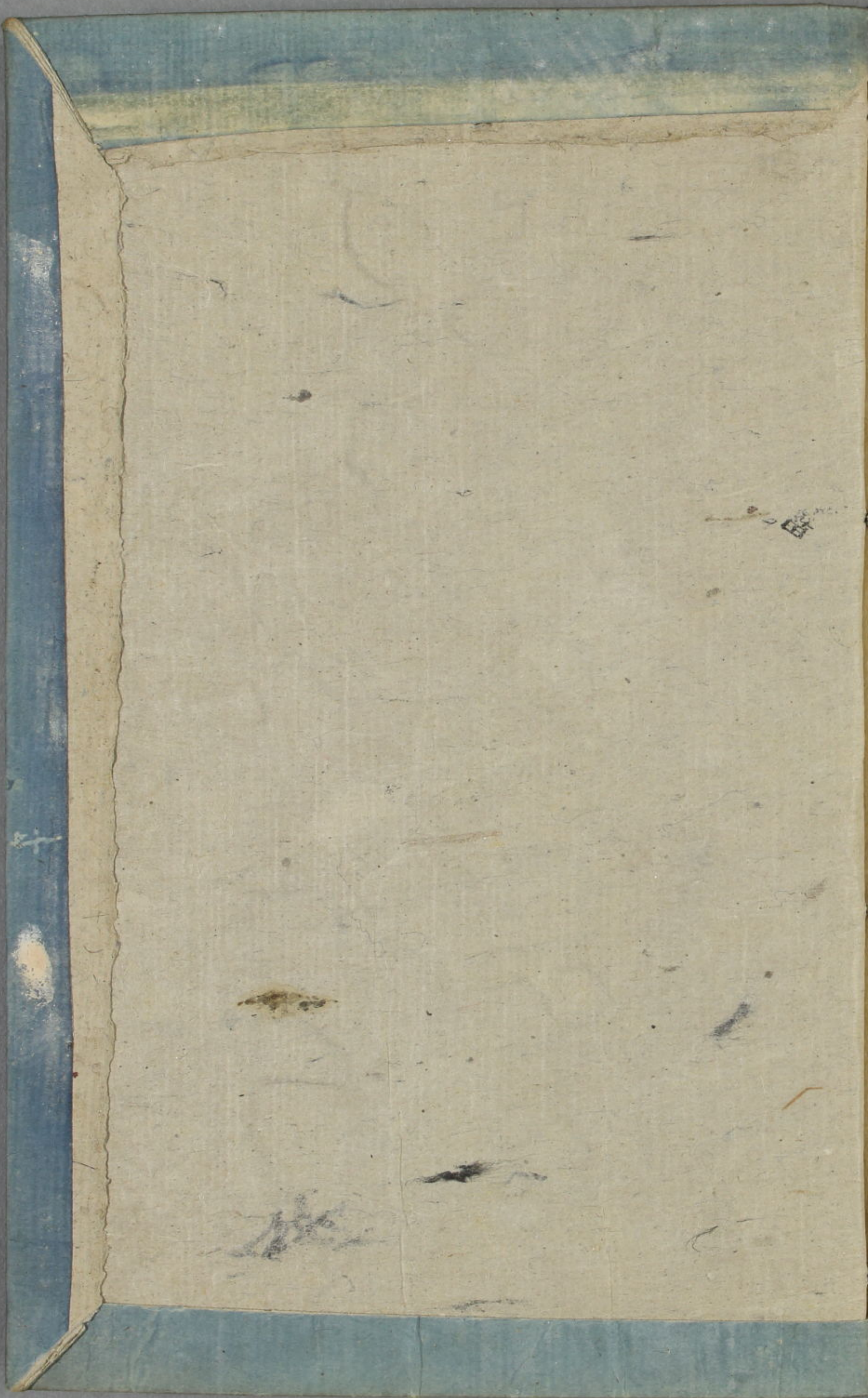
文化三年春三月

あや葉乃また程ふといふ。秋よきを
あきし。又かきよき。しひよ書見取した。
方かくあほとむく。志うりし。程はく。
志うりし。程はく。よく。く。あ。え。た
は。人。の。ま。が。よ。る。程。は。く。あ。は。る。づ。き
程。は。く。あ。は。る。う。り。し。程。は。く。あ。は。る。づ。き。或。い。し。か

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a short passage, located on the right side of the page.

南唐大平

Handwritten text in a cursive script, located on the left side of the page, possibly a signature or a short passage.



Handwritten text in vertical columns, likely in Japanese or Chinese characters, enclosed within a faint rectangular border. The text is written in a cursive style. The characters are difficult to read due to fading and the age of the paper.

中居大平

一



中
心
書
庫